

解答範囲は、解答番号 から までです。

(二) 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、原文を改変した箇所があります。

【引用部分は削除しています】

←

←

←

【引用部分は削除しています】

←

←

←

(注) ○ 陥穽 〓 おとしあな。

(中村雄二郎「感性の覚醒 近代情念論の再検討を通じて」による)

英語

日本史

世界史

政治・経済

数(文系型)学

数(理系型)学

物理

化学

生物

正解・正解例 講評

国語

問一 傍線部⑦(㉒)にあたる漢字を、次の各群のうちから一つずつ選びなさい。

解答番号 1 4

- ⑦ トウギョ
- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| ① 闊 | ② 東 | ③ 統 | ④ 当 |
| ① 味 | ② 実 | ③ 身 | ④ 美 |

- ⑧ チンモク
- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| ① 鎖 | ② 沈 | ③ 陳 | ④ 賃 |
| ① 現 | ② 弦 | ③ 敵 | ④ 元 |

問二 傍線部①「非合理性がむき出しになるところがある」の具体例として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 5

- 休み時間中の会話は平気なのに、授業中に大勢の前で話をすることを恥ずかしく思う。
- 他人から批判的な意見を言われると、とっさに反論してしまう。
- 課題を締め切り日までに提出していなくても、友達も提出しなかったのではつとしている。
- サッカーの試合で、ゴールの判定に不服をもった観衆がグラウンドになだれ込む。

問三 空欄 A 〃 C を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 6

- A ところで B そのうえ C そして
- A また B しかし C ところが
- A しかし B では C したがって
- A そして B また C では

問四 傍線部②「凝固なまとまりが分散を含んだまとまりになる」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 7

- まとまっているように見えた情念が、感情という上位概念に吸収され消化されていくということ。
- 情念というかたちで持続性を持ったものが、秩序づけられ意識化された感情を形成していくということ。
- 流動的であった情動や情念が、散らばった後にしっかりと定着して感情というまとまりになっていくということ。
- 一つに固まっていたそれぞれの情動や情念が、最終的にはばらばらになって感情が生まれてくるということ。

問五 空欄 I を補うのに最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 8

- 情動
- 情念
- 凝固
- 分散

問六 傍線部③「劇や小説の主人公たち」はどのようなものであると筆者は説明していますか。最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 9

- 彼らの人生が波瀾にみちたものになるのは、感情の起伏が他者より激しいからである。
- 彼らの魅力的な人間像が形成されるのは、感情のまとまりがあるからである。
- 彼らの異常な感情は、情念や情動を含もうが含むまいが人々の共感を呼ぶものである。
- 彼らの人生が人々の共感を呼ぶためには、異常な感情が含まれていてはならない。

問七 傍線部④「括弧に入れて」の意味として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 10

- 物事を真っ先に考えることにして
- 物事を簡潔に整理して
- 物事を確定して
- 物事を不確かなものとして保留して

問八 傍線部⑤「そのような方法だけで事足れりとするならば、大きく欠けるところが出てくるはずである」とありますが、その説明として最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 11

- 共同感情と国家をはじめとする共同社会は表裏をなすものであり、共同感情を無視して問題を考察することはできないということ。
- 共同感情や文化の側面を捨象することでしか、大きな共同社会を問題とする社会理論や社会論は成立しないということ。
- 共同感情の問題を社会の問題と結び付けて考えることで、社会や国家を運営していくための冷徹な支配原理が見失われてしまうということ。
- 共同感情によって共同社会を理解することは、民主主義や天皇制の議論のように、大きな陥穽にはまる危険性があると

問九 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

解答番号 12

- 感情は個人においても集団においても、同じくらい不安定で操作されやすいものである。
- 怒りの感情とは、怒りに全体を覆われ秩序づけられた感情のことである。
- 集団の共同感情は固有の文化を形成し、その形成には言語が大きな役割を果たしている。
- 国家は冷徹な支配原理で動いているので、共同感情や文化は常に排除される危険性がある。

(二) 左の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、原文を改変した箇所があります。本文中の傍点は、原文についているものです。

【引用部分は削除しています】

←
←
←

【引用部分は削除しています】

←
←
←

英語

日本史

世界史

政治・経済

数(文系型)
学

数(理系型)
学

物理

化学

生物

正解・講評
正解例

国語

国語(1月31日)

一般選抜入試(前期日程)

(多田智満子「世界の鏡」による)

(注) ○プラトン＝古代ギリシアの哲学者。紀元前四二九頃～三四七。○イテア論者＝時空を超越した非物理的、絶対的な永遠の存在を信じる人。ここではプラトンのこと。○ルネサンス期＝一四～一六世紀、イタリアをはじめとするヨーロッパ各地で古典文化を範として人間性の肯定を主張する文化運動が起こった時期。○レオナルド・ダ・ヴィンチ＝イタリアの芸術家。一四五二～一五一九。○ハーバート・リード＝イギリスの詩人、批評家。一八九三～一九六八。○ピロオッド＝ピロオドに同じ。欧文・ローマ文字で文末につける符号。終止符。○北方ではファン・アイク兄弟…ティントレット等いずれも一四～一七世紀のヨーロッパの画家の名。○マニエリスト＝一六世紀前半～一七世紀初頭にヨーロッパで盛んであった、マニエリスムという誇張の多い技巧的な美術様式の実践者。○平面鏡＝反射面が平面の鏡。○凸面鏡＝球面の外側を反射面として使う球面鏡。○レヴィ・ストロース＝フランスの文化人類学者。一九〇八～二〇〇九。○フィレンツェ＝イタリア中部の都市。ルネサンス文化の中心地。○紳商＝教養と品位を備えた一流の商人。○羅紗＝厚地の毛織物。○フランドル＝ベルギー西部を中心に、フランス北端部とオランダ西部を含む地方。○パルミジアーノ＝イタリアの画家。一五〇三～一五四〇。○パロジカル＝一見論理的だが、実は論理的でないさま。○素朴實在論＝自分に見えるものはすべて実在するという考え方。○船晦＝他人の目をくらし、かくすこと。○卓子＝机。テーブル。○荷電＝物体が電気を帯びていること。

問一 傍線部①「画家は鏡に似たものとなるべきだ」とは、どういうことですか。最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 13

- ① 画家は、自然の事物に模倣されている高次の実在を絵画の中に映しとらうとするべきだということ。
- ② 画家は、もっぱら事物の外観をキャンバス上に忠実に再現することに力を注ぐべきだということ。
- ③ 画家は、本人の好みに左右されることなくあらゆる事物を再現の対象とするべきだということ。
- ④ 画家は、たとえ一枚の絵画の中にも世界の全体像を映し出すように努力するべきだということ。

問二 空欄 A、C を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 14

- ① A そして B また C ところで
- ② A したがって B すなわち C とはいえ
- ③ A しかし B というのは C そして
- ④ A さて B ところが C したがって

問三 傍線部②「総体的所有慾」の説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 15

- ① 価値があると思われる全てのものを、絵画という形にしてでも、自分の手元に置いておきたいという欲望。
- ② 巨大な富を投じて画家たちに世界中の事物を描かせ、彼らを道具として思いのままに扱いたいという欲望。
- ③ さまざまなものを絵画に描くことによって富を獲得し、あらゆる望ましいものを手に入れたいという欲望。
- ④ 芸術家の高度な技術によって、現実の世界よりもすぐれた理想の小宇宙を画中に作り上げたいという欲望。

問四 傍線部③「凸面鏡の自画像」について述べたものとして、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 16

- ① 巨大に描かれた手と奥に小さく描かれた顔のコントラストが、作品を見る者に美しさとユーモラスさを感じさせる。
- ② 一風変わった構図のために、絵画の色調は統一されているものの、画中の空間はすっきり崩壊してしまっている。
- ③ 画中の少年のありさまは、かつてこの作品の複写を目にした筆者の心の中に、たちまち親近感を引き起こした。
- ④ 事物を歪んだ形で映し出す凸面鏡の効果を利用して、絵画の中に奇妙な世界を作り出すことに成功している。

問五 傍線部④「視線の屈折」について説明したものとして、明らかにふさわしくないものを一つ選びなさい。

解答番号 17

- ① 「見る者」としての画中の鏡は、画家よりも忠実に「見えるもの」を再現している。
- ② 「見る者」である画家と「見えるもの」である世界との間に、新たに画中の鏡が入り込んでいる。
- ③ 第一の眼と第二の眼はともに「見る者」として、「見えるもの」としての光景を見つめている。
- ④ 絵の中に描き込まれた鏡は「見えるもの」でありながら、同時に画中の光景を「見る者」でもある。

問六 空欄 X と Y を補うのに最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 18

- ① X 一目瞭然 Y 初期化
- ② X 完全無欠 Y 二極化
- ③ X 当意即妙 Y 多元化
- ④ X 単純明快 Y 複雑化

問七 傍線部⑤「このトリック」の説明として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 19

- ① 絵画に描かれた鏡の中に、私たちが監視する画家自身の眼が描き入れられ、鮮明な恐怖を演出しているということ。
- ② 見られるものであるはずの絵画の中にあらかじめ鏡が描き込まれ、私たちが映し出そうと待ち構えているということ。
- ③ 絵の中に描かれたあらゆる人物の視線は、画中の世界を見つめるだけでなく私たちにも向けられているということ。
- ④ 私たちは絵画に描かれた光景を見つめる時、画中の鏡に自分の眼が映り込んでいると錯覚させられるということ。

問八 この文章の内容に明らかに合致しないものを一つ選びなさい。

解答番号 20

- ① 写真術が発明されるより前に、ファン・アイク兄弟をはじめとする芸術家たちは、鏡と鏡に映る像を絵画の中に描き入れ始めていた。
- ② 凸面鏡は平面鏡よりも作りやすかつただけでなく、その光学的原理にはルネサンス人の欲望に呼応するところがあったと考えられる。
- ③ パルミジアーノの「凸面鏡の自画像」とフランドル派の室内画の中にはともに鏡が描き入れられ、各々に異なる効果をもたらしている。
- ④ 画中の凸面鏡に映り込む世界は、画家の眼に映った世界とは一致しないものであるが、画家たちはかえって喜んでそれを描こうとした。

〔三〕左の文章は、鎌倉時代中期の後深草院一系という女性が著した「とはずがたり」の一節です。作者は、かつて宮中に仕え、後深草院の寵愛を受けていましたが、出家して旅に出ました。この文章は、旅先の鎌倉での出来事を記したものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

鎌倉へ入るに、極楽寺といふ寺へ参りて見れば、僧のふるまひ都に違はず、なつかしくおぼえて見つつ、化粧坂といふ山を越えて、鎌倉の方を見れば、東の山にて京を見るには引き違へて、階などのやうに重々に、袋の中に物を入れたるやうに住まひたる、あなものわびしと、やうやう見えて、心どまりぬべき心地もせず。由比の浜といふ所へ出て見れば、大きな鳥居あり。若宮の御社はるかに見え給へば、(中略)まづ御社へ参りぬ。所のさまは、男山の景色よりも海見違かしたるは、見所ありとも言ひぬべし。大名ども、浄衣などにはあらず、色々の直垂にて参り出づるも、やう変はりたる。

かくて在柄・二階堂・大御堂といふ所ども拝みつつ、大蔵の谷といふ所に、小町殿とて將軍にさぶらふは、土御門定実のゆかりなれば、文つかはしたりしかば、「いと思ひ寄らず」と言ひつつ、「わがもとへ」とてありしかども、なかなかむつかしくて、近きほどに宿を取りてはべりしかば、「便りなくや」など、さまざま訪ひおこせたるに、道のほどの苦しきも、しばしいたはるほどに、善光寺の先達に頼みたる人、卯月の末つかたより大事に病み出だして、前後を知らず。あさましとも言ふばかりなきほどに、少しおこたるにやと見ゆるほどに、わが身、またうち臥しぬ。二人になりぬれば、人も、「いかなることにか」と言へども、「ことさらなることにてはなし。ならばぬ旅の苦しきに、持病の起こりたるなり」とて、医師などは申ししかども、今はといふほどなれば、心細さも言はむ方なし。

さほどなき病だにも、風邪の氣、鼻垂りといへども、少しも煩はしく、二、三日にも過ぎぬれば、陰陽・医道の漏るるはななく、家に伝へたる宝、世に聞えある名馬まで、靈社、靈仏に奉る。南嶺の橋、女圍の梨、わがためにこのみこそ騒がれしに、病の床に臥して、あまた日数は積もれども、神にも祈らず、仏にも申さず、何を食ひ、何を用ゐるべき沙汰にも及ばず、ただうち臥したるままにて明かし暮らすありさま、生を愛へたる心地すれども、命は限りあるものなれば、水無月のころよりは心地もおこたりぬれども、なほ物参り思ひ立つほどの心地はせて、ただよひ歩きて、月日むなく過ぐしつつ、八月にもなりぬ。

十五日の朝、小町殿のもとより、「今日は都の放生会の日にてはべり。いかと思ひ出づる」と申したりしかば、
A 思ひ出づるかひこそなければ石清水同じ流れの末もなき身は返し。
B ただ頼め心の注連の引く方に神もあはれはさこそかくらめ

また、鎌倉の放生会といふことあれば、このありさまもゆかしくて、立ち出でて見れば、將軍御出仕のありさま、所につけてはこれもゆゆしげなり。大名ども、みな狩衣にて出仕したる、直垂着たる帯刀とやらむなど、思ひ思ひの姿ども珍しきに、赤橋といふ所より、將軍、車より下りさせおはします折、公卿・殿上人、少々御供したるありさまぞ、あまりに賤しげにも物わびしげにもはべりし。

(後深草院二系「とはずがたり」による)

(注)

- 階などのやうに……住まひたる＝平地が少ないので、傾斜面にも家々が重なり合うやうに建てられており、その様がるで袋の中に物を入れたやうなこと。○若宮の御社＝ここでは鶴岡八幡宮(現在の神奈川県鎌倉市にある神社)のこと。後出の「鎌倉の新八幡」もこれに同じ。八幡神は源氏の氏神、守り神として敬われた。
- 男山＝現在の京都府八幡市にある山。ここではその山にある石清水八幡宮をさす。○大名＝地方豪族の武將。
- 浄衣＝神事や祭事などに着る白い衣服。○大蔵の谷＝現在の神奈川県鎌倉市に含まれる地域の名称。○小町殿＝女性の名。○將軍＝鎌倉將軍のこと。このときの將軍は、源頼朝の血縁者ではなく、京都から招かれた皇族の惟康親王。○土御門定実＝作者の親戚の貴族の男性。○善光寺の先達＝善光寺(現在の長野県長野市にある寺院)まで案内してくれる人。○南嶺の橋、女圍の梨＝ともに伝説上の得難い果物。○騒がれしに＝主語は作者の父。○生を愛へたる心地＝一度死んで生まれ変わり、違う人生を生きているやうな気持ち。
- 放生会＝

生き物を野や川などに放つて自由にしてやる宗教儀礼。旧暦八月十五日に寺院や神社で行われた。○石清水＝石清水八幡宮のこと。○同じ流れの末もなき身＝八幡神を氏神とする源氏の家に生まれながら、将来に希望を持たない私、の意。作者の父は源雅忠という貴族。○注連＝しめ縄のこと。

問一 傍線部①「見え給へば」の「給へば」の敬意の対象として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 21

- ① 作者 ② 僧 ③ 若宮の御社 ④ 大名ども

問二 二重傍線部 a「卯月」と b「水無月」は、陰暦の何月ですか。最も適当な組み合わせを一つ選びなさい。

解答番号 22

- ① 「卯月」は二月、「水無月」は四月。
- ② 「卯月」は三月、「水無月」は五月。
- ③ 「卯月」は四月、「水無月」は六月。
- ④ 「卯月」は五月、「水無月」は七月。

問三 傍線部②「少しおこたるにやと見ゆるほどに」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 23

- ① 私が読経を少し怠ったせいなのかと思つた矢先に
- ② 私が出発の日を遅らせようかと様子を見て
- ③ 先達が仏道修行を少し怠けたのかと思つた矢先に
- ④ 先達の病状が少し快方に向つたのかと見えると

問四 傍線部③「心細さも言はむ方なし」とありますが、そのような心境になつた理由として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 24

- ① 長野の善光寺に向かう長旅はただでさえ不安なことが多いのに、案内人は病気で寝込み、さらにいわれなき誹謗中傷まで受けてしまつたから。
- ② 善光寺への案内人は、医者も飯病であることを見破られたのに、もう死んでしまふのかというくらい苦しうな様子を感じ続けているから。
- ③ 病氣になつた作者は、医者にもそれほど重い病氣ではないと言われたものの、自分自身はもう死んでしまふのではないかと、思うくらい苦しいから。
- ④ 病氣になつた作者は、医者も旅の疲れで持病がおこつたのだと言われたものの、そのときには特に苦しいと感じることがなかつたから。

問五 A・Bの和歌にこめられた心情を説明したものととして、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 25

- ① Aの和歌には、自分のような者は京の放生会など思い出すかいないという作者の暗い心情が詠みこまれている。これに対し、Bの和歌には、そのような作者を元気づけようとする小町殿の激励の思いが詠みこまれている。
- ② Aの和歌には、もう愚痴は言うまいと決意した作者の毅然とした心情が詠みこまれている。これを受けて、Bの和歌には、作者の心が晴れやかになったことを知った小町殿の安堵感が詠みこまれている。
- ③ Aの和歌には、都での思い出と決別したいという作者の悲痛な心情が詠みこまれている。これに対し、Bの和歌には、そのような作者の心を理解できない小町殿の困惑した思いが詠みこまれている。
- ④ Aの和歌には、二度と宮中には戻れないのだという作者の絶望感が詠みこまれている。これに対し、Bの和歌には、一心に八幡神に祈って、ともに宮中に復帰しようとする小町殿の前向きな気持ちが詠みこまれている。

問六 傍線部④「このありさまもゆかしく」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

解答番号 26

- ① 都の雅さを思い出させるものなので
- ② 小町殿の返歌もうれしく感じられたので
- ③ 行事の様子も知りたくて
- ④ 鶴岡八幡宮の様子も尊く感じられたので

問七 この文章の内容に合致するものを一つ選びなさい。

解答番号 27

- ① 鎌倉に到着した作者は、高台から鎌倉の町を眺めた。その様子は、東山から眺める京の都の風景とは全く異なっていたが、とても質素で落ち着いた感じがして、不思議と嫌な気持ちにはならなかった。
- ② 作者は、小町殿の館の近くに宿泊していた。しかし、いきなり訪問することはせず、丁寧に手紙を書き送った。その理由は、小町殿がたいそう気難しい人だったからである。
- ③ 鎌倉の地で病気になるた作者は、都に住んでいた頃のことを思い出した。それは、鼻水といった風邪のような症状が二、三日くらい続いたというだけで、父親が大騒ぎして効果のあること何でもしてくれたいという思い出であった。
- ④ 作者は鶴岡八幡宮の放生会に参拝し、鎌倉将軍と面会することができた。しかし、鎌倉将軍の様子は、高い身分の貴族と一緒にいるせいなのか、とても下品に見え、わびしい気持ちになってしまった。

問八 「とはすがたり」と同じく、女性の作者による作品を一つ選びなさい。

解答番号 28

- ① 「土佐日記」 ② 「蜻蛉日記」 ③ 「方丈記」 ④ 「徒然草」